

Topics

認知症の人に温かい町づくりを



◀愛治地区認知症見守り・SOSネットワークの有志による熱演

11月30日、愛治公民館で愛治地区認知症講演会が開催されました。

今年度、当町の認知症事業のモデル地域として指定されている愛治地区。愛治地区認知症見守り・SOSネットワークの有志による演劇では、時折笑いも交えながら、認知症の人を周りの人が温かく受け入れることの大切さを訴えました。

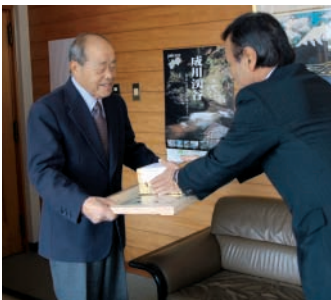
また、砥部病院・高齢者こころのケアセンターの中城有喜センター長は「認知症に必要なのは愛情」「何もすることが無い状態が認知症を悪化させる」と認知症に対する理解の重要性を教授しました。

Topics

緑溢れる景観を守って…

地域林業の振興と森林の持つ多面的機能の保全維持に努めてきた功績が認められ、近永地区町有林管理組合の前組合長である高田辯さん=近永=が、中国・四国地区緑化功労者として表彰されました。

高田さんは「このような立派なものをいただき、とても感謝している」と満面の笑みで喜びを語ってくれました。



◀表彰状を受け取る高田氏

Topics

より良い地域づくりに貢献



兵頭要氏
(上鍵山)

長年、日吉村議会議員として村行政の発展のために尽力された功績が認められ、このたび兵頭要さん=上鍵山=が旭日単光章を受章されました。

兵頭さんは「後輩や先輩方を代表する気持ちで受け取りたい」と感謝の気持ちを述べられました。

Topics

気付いてほしい、地域の魅力とその価値



◀文化庁記念物課・市原富士夫文化財調査官による講演

11月23日、日吉住民センターで「平成25年度鬼北町文化シンポジウム」が開催されました。

この日は「下鍵山幸田町の街並みとその景観-保護制度とその活かし方を考える-」と題して、文化庁記念物課の市原富士夫氏を筆頭に3名の講師がそれぞれの立場から下鍵山地区の魅力を力説。参加した住民たちは、熱心に聞き入りながら、自分たちが住む地域の良さを再確認していました。

Topics

備えることの大切さと避難する勇気

「防災キャラバンin鬼北」は12月1日、近永小学校屋内運動場で開催されました。

この日は消防団員や町民など約500人が参加。愛媛大学防災情報研究センターの矢田部龍一センター長と竹田正彦副センター長、消防科学総合センターの毛利泰明防災図上訓練指導員の3名が、それぞれの立場から講演を行い、「災害はいつ起こるか分からない。さまざまな想定の中でどう行動するのか、明日から考えてほしい」と自身の命を守るための心構えを訴えました。



▲講義する矢田部センター長

Topics

これから先も町のシンボルとして



改修後の鬼北町役場▶
庁舎の模型

「庁舎改修に関する住民説明会」は12月1日から8日までの間、町内6地区で開催されました。

説明会では、レーモンド設計事務所による図面や動画を使った設計概要の説明や日本建築学会愛媛支部による現庁舎の解説などが行われました。

また、質疑応答の時間には、耐震補強に関することなど住民の立場からの活発な意見が飛び交い、納得のいくまで何度もやりとりが交わされました。